

第4章

市内エコプランの進捗状況

平成19年度の「市内エコプラン」(市の事務・事業で環境保全に配慮すべき施策)の進捗状況及び事務・事業に伴い発生した温室効果ガスの排出状況を報告します。

1 庁内エコプランの推進

庁内エコプランは、市の事務・事業における温室効果ガスの削減目標及び環境保全に関して、配慮すべき事項を定めた計画です。

環境基本計画を推進するための計画であるとともに、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の第20条の3に基づいた「地方公共団体実行計画」としても位置付けています。

なお、計画の対象期間は、平成15年度(2003年度)から平成19年度(2007年度)までの5年間としています。

本章では、平成19年度の事務・事業に伴い発生した温室効果ガスの状況と、庁内組織・施設等を対象とした庁内エコプランの進捗状況を整理しています。

■ 温室効果ガスの総排出量の削減目標

平成19年度を目標年度とし、平成13年度レベルより6%削減し維持します。

なお、平成20年度から進める新たな庁内エコプランでは、平成18年度を基準として、平成24年度までに5%削減を目標としています。

	年度	温室効果ガス排出量	削減目標
庁内エコプラン	平成13年度(基準年度)	3,795,027 kg-CO ₂	-
	平成19年度(目標年度)	3,567,325 kg-CO ₂	6%

■ 「庁内エコプラン」の取組み

庁内エコプランでは、温室効果ガス排出量の6%削減を目標に掲げ、目標達成のために各組織・施設等で職員一人ひとりができる取組みを5項目、28行動を設定し、温室効果ガス排出量の削減に向けた取組みを進めました。

- ① グリーン購入の推進
- ② 公用車の適正な維持管理の推進
- ③ 省エネルギー・省資源対策の推進
- ④ 廃棄物の減量化・資源化の推進
- ⑤ 庁舎・施設等の適正な維持管理の推進

平成19年度の温室効果ガス総排出量(二酸化炭素換算)は、基準年度(平成13年度)と比較して6.5%の削減となり、削減目標を達成しました。

平成20年度からは、新たな庁内エコプランに基づいた取組みを進め、本市の事務・事業から発生する温室効果ガス排出量のさらなる削減に努めます。

■ 対象とする組織・施設

区分	組織・施設等
市庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部(総務課、秘書広報課、情報管理課、管財課、防災課) ・企画財政部(企画政策課、財政課、まちづくり推進課、市民税課、資産税課) ・市民経済部(市民活動推進課、市民課、生活環境課、産業振興課) ・健康福祉部(社会福祉課、介護福祉課、子育て支援課、保育課、健康増進課、国保年金課) ・都市建設部(都市計画課、都市整備課、土木管理課、建設課、上下水道課) ・会計課 ・議会事務局 ・選挙管理委員会事務局 ・監査委員事務局 ・農業委員会事務局 ・教育委員会(教育総務課、学校教育課、生涯学習課、スポーツ振興課)
小中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校(木下小学校、大森小学校、小林小学校、小林北小学校、永治小学校、船穂小学校、木刈小学校、小倉台小学校、内野小学校、原山小学校、高花小学校、西の原小学校、原小学校) ・中学校(印西中学校、小林中学校、船穂中学校、木刈中学校、原山中学校、西の原中学校)
幼稚園 保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園(大森幼稚園) ・保育園(木下保育園、大森保育園、木刈保育園、内野保育園、高花保育園、西の原保育園)
出先機関	<ul style="list-style-type: none"> ・船穂出張所 ・小林コミュニティプラザ(小林出張所、小林公民館、小林図書館) ・中央駅前出張所 ・牧の原出張所 ・中央公民館(公民館、視聴覚ライブラリー) ・中央駅前センター(中央駅前公民館、中央駅前児童館、中央駅前老人憩いの家 中央駅前子育て支援センター) ・ふれあい文化館(そうふけ公民館、そうふけ図書館、そうふけ児童館、 そうふけ老人福祉センター) ・大森図書館 ・文化ホール ・小倉台図書館 ・資料整理作業所 ・高花学校給食センター ・牧の原学校給食センター ・中央保健センター ・保健福祉センター(南部保健センター、高花老人福祉センター、子ども発達センター) ・総合福祉センター(地域福祉センター、子どもふれあいセンター、中央老人福祉センター) ・そうふけふれあいの里(草深ふれあい市民センター、教育センター、高齢者就労支援センター、 クリオネクラブ、そうふけつどいの広場) ・松山下公園(松山下公園事務所)

備考)対象とする組織・施設は、平成19年4月1日現在としています。

2

温室効果ガスの排出状況等

■ 燃料等の使用状況

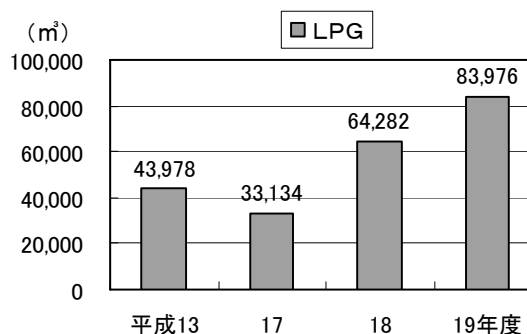
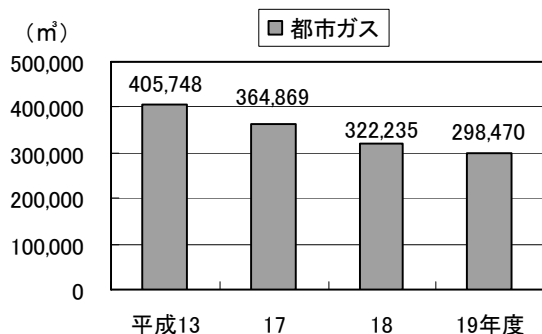
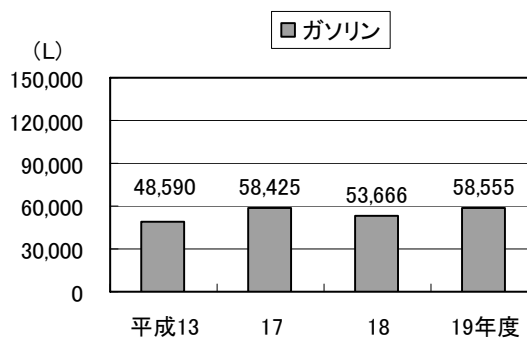
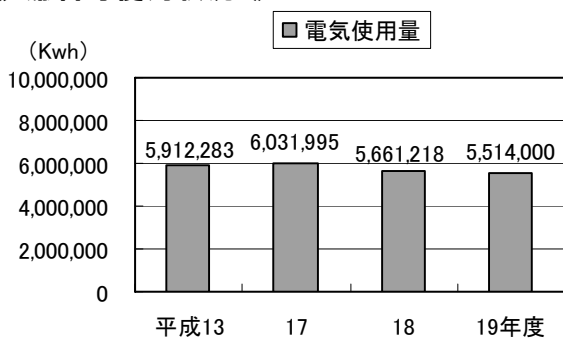
平成 19 年度(平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月)における 1 年間の燃料使用量等は、下表のとおりです。

平成 19 年度は、前年度と比較して、電気、都市ガス、灯油の使用量が減少したものの、ガソリン、軽油、液化石油ガス(LPG)が増加しました。また、紙の使用量も前年に比べ増加しました。

《 燃料等使用状況一覧 》

項目	年度	単位	年間使用量			使用量 対前年比
			平成 13 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	
燃料使用量	ガソリン	l	48,590	53,666	58,555	9.1%増
	灯油	l	117,334	67,060	65,396	2.5%減
	軽油	l	11,998	6,591	7,076	7.4%増
	A重油	l	-	-	415	-
	液化石油ガス (LPG)	m ³	43,978	64,282	83,976	30.6%増
	都市ガス	m ³	405,748	322,235	298,470	7.4%減
電気使用量		kwh	5,912,283	5,661,218	5,514,000	2.6%減
自動車走行量	ガソリン車	km	-	481,448	446,696	7.2%減
	軽油車	km	-	19,256	16,787	12.8%減
上水道使用量		m ³	-	154,479	147,855	4.3%減
下水処理量		m ³	-	140,530	119,014	15.3%減
紙使用量	普通紙	枚	-	89,670	219,800	145.1%増
	カラーコピー用紙	枚	-	97,730	98,000	0.3%増
	再生紙	枚	-	4,856,862	6,468,911	33.2%増

《 燃料等使用状況 》



■ 温室効果ガスの排出状況

平成19年度の温室効果ガス総排出量(二酸化炭素換算)は、基準年度(平成13年度)より6.5%減少し、3,546,911 kg-CO₂となりました。前年度との比較では、約0.6%排出量が増加しています。

排出源の種類ごとの割合を見ると、電気(58.8%)、都市ガス(17.8%)、液化石油ガス(14.3%)で全体の約90%を占めています。特に電気を使用することで発生する温室効果ガスは全体の約60%を占めている状況です。

事務・事業におけるエネルギーの使用は、職員一人ひとりの取組みによって成果が変わるため、今後も庁内エコプランを周知し、庁内全体での削減に取り組めます。

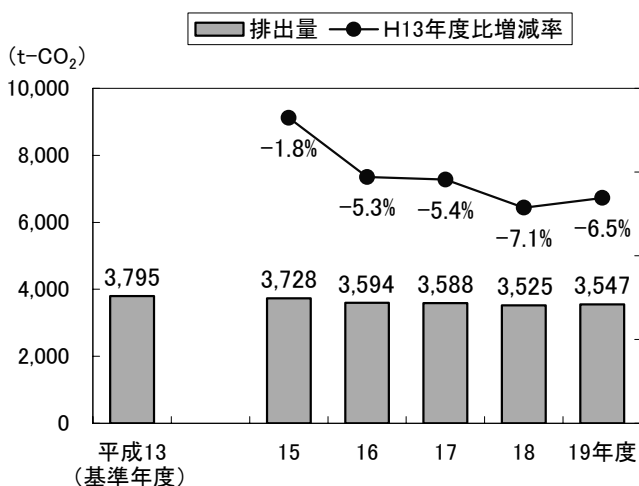
《 温室効果ガス総排出量の推移 》

活動の種類及び温室効果ガス区分		年間排出量(kg-CO ₂)			活動種類別温室効果ガスの割合
		平成13年度	平成18年度	平成19年度	
二酸化炭素	ガソリン	112,243	123,968	135,262	3.8%
	灯油	294,508	168,321	164,144	4.6%
	軽油	31,675	17,399	18,682	0.5%
	A重油	0	0	1,150	0.0%
	液化石油ガス(LPG)	265,628	388,263	507,215	14.3%
	都市ガス	856,129	679,915	629,772	17.8%
	電気	2,234,843	2,139,940	2,084,292	58.8%
メタン	自動車の走行	-	154	155	0.0%
	下水の処理	-	2,597	2,199	0.1%
一酸化二窒素	自動車の走行	-	4,418	4,041	0.1%
合計		3,795,027	3,524,976	3,546,911	100.0%
基準年度からの増減率		-	7.1%減	6.5%減	

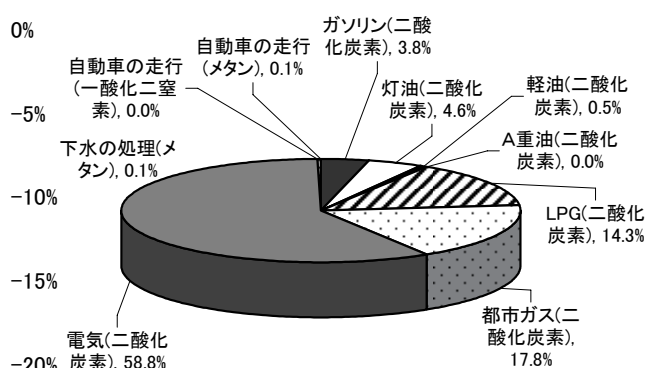
備考1)「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令の一部を改正する政令」が平成18年4月1日に施行され、電気の排出係数が「0.555」へ変更されましたが、本環境白書では温室効果ガス排出量の算定条件を同じにするため、従来どおり「0.378」を使用しています。

備考2)庁内エコプランにおいては対象とする温室効果ガスを二酸化炭素としていますが、社会情勢を考慮して平成15年度から自動車走行、下水処理に伴い発生するメタンと一酸化二窒素を対象ガスに含めています。

《 温室効果ガス総排出量の推移 》



《 平成19年度温室効果ガス排出量の割合 》



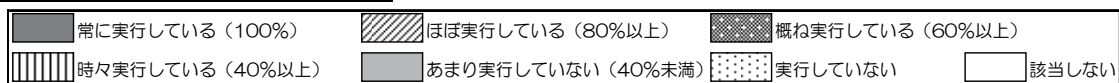
3 取組みの実施状況

平成 20 年度の全職員に行った自己行動調査の集計結果は、以下のとおりです。

平成 15 年度以降、職員に対して庁内エコプランの周知を継続してきました。自己行動のほとんどで「常に実行している」の割合が増加しています。

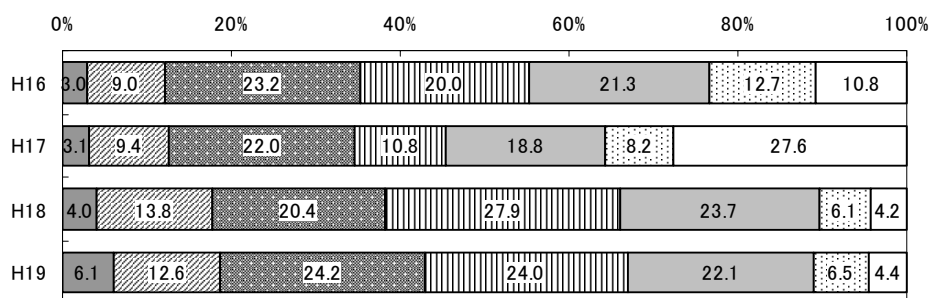
グリーン購入の実施、使い捨て商品の使用の取組みについては、「常に実行している」及び「ほぼ実行している」を合わせて 5 割以下となっていますが、徐々に取組まれるようになっていきます。

取組みの実施状況の変化

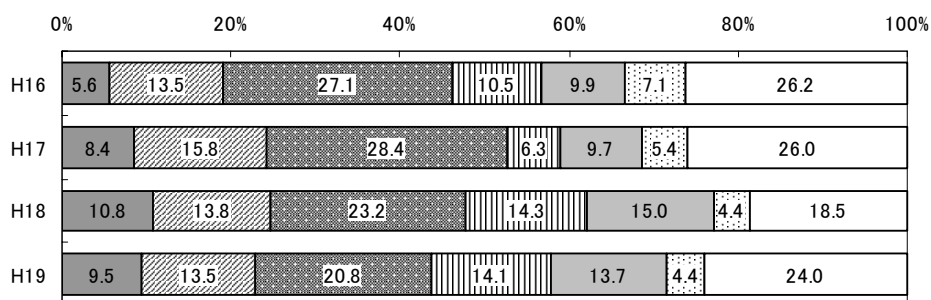


■ グリーン購入の推進

● エコマーク商品※を優先的に購入している

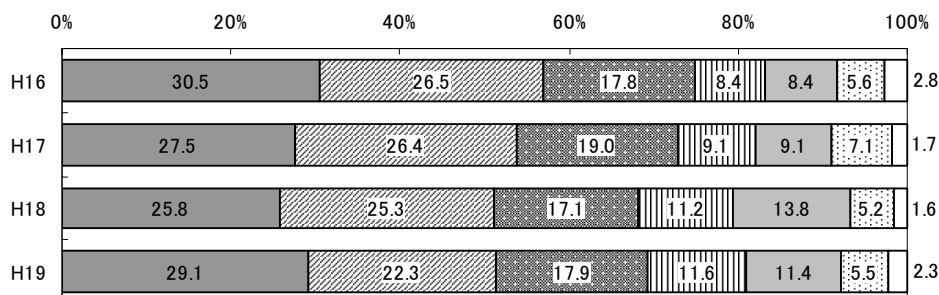


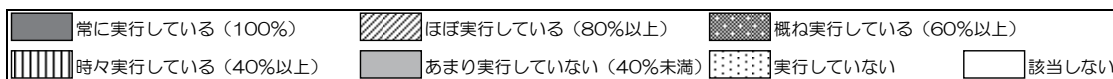
● エネルギー効率の良い OA 機器の導入を心がけている



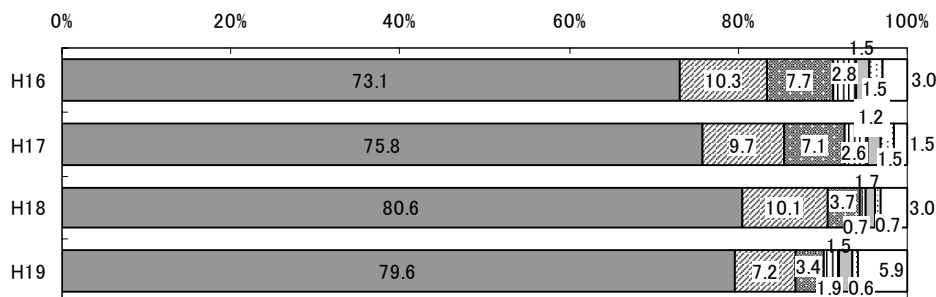
■ 公用車の適正な維持管理の推進

● アイドリングストップを実施している



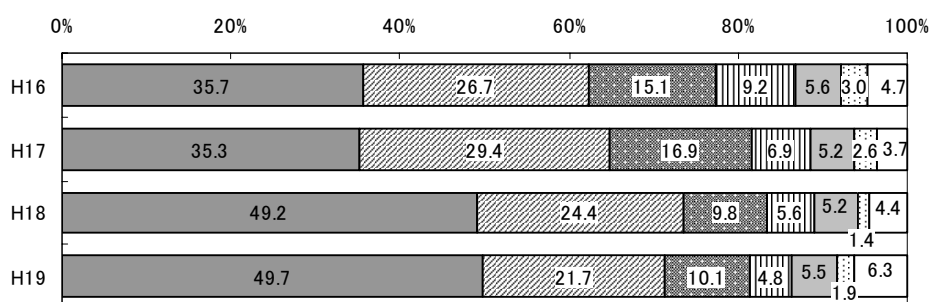


● 公用車 1 台ごとに走行距離・給油量等を記録している

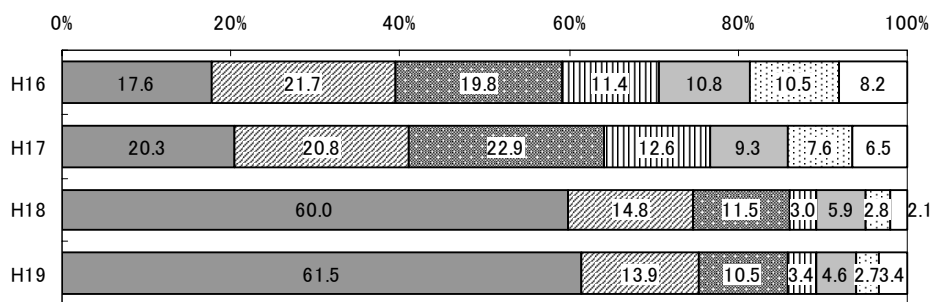


■ 省エネルギー・省資源対策の推進

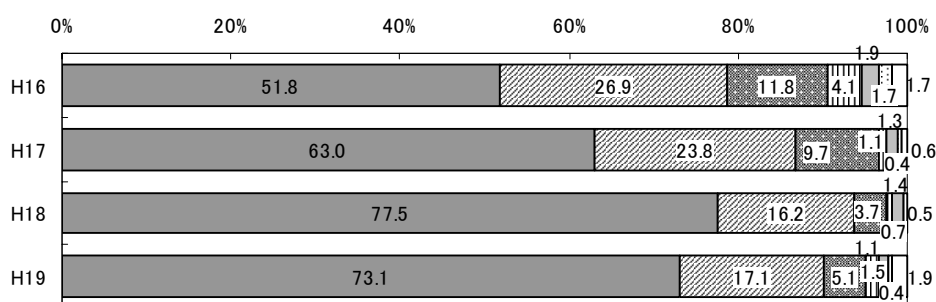
● 昼休みの消灯、時間外の不要箇所の消灯を実施している

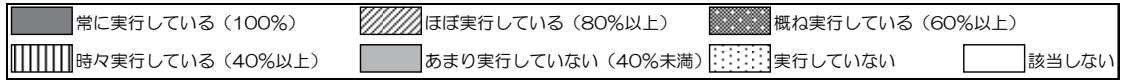


● パソコンは未使用時には電源を落とすように心がけている

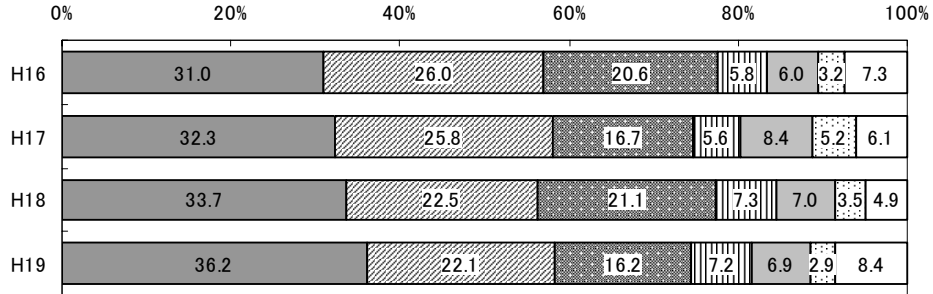


● トイレ・給湯室・更衣室等は使用の際に点灯するようにしている

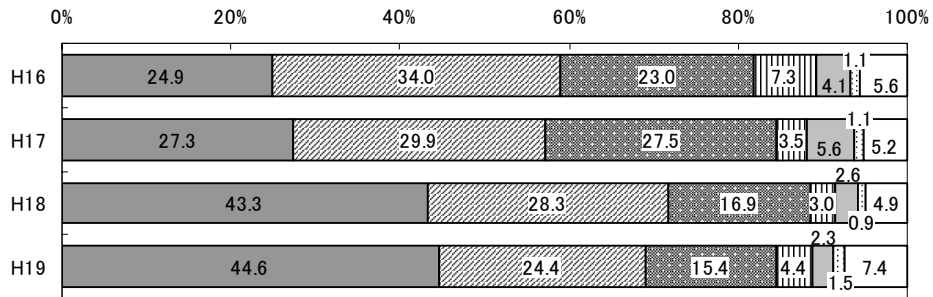




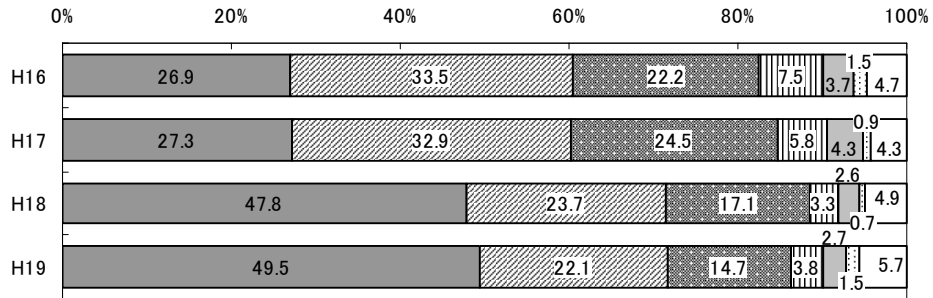
●ノー残業デーを実施している



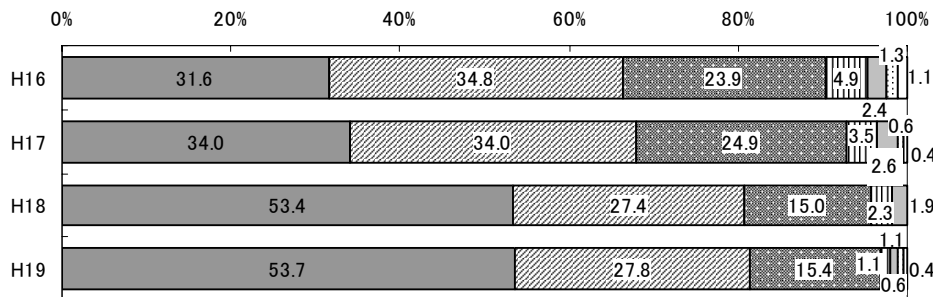
●暖房・冷房は適切な温度調節を心がけている

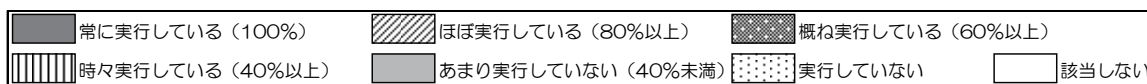


●夏季にはブラインドを閉める等、室温の上昇を防ぐよう努めている

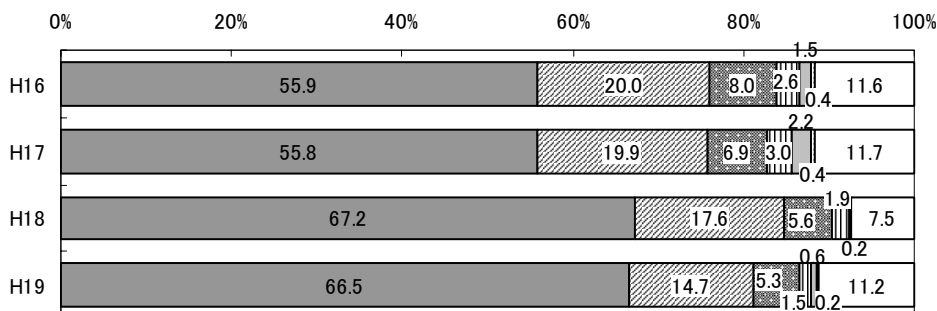


●日常的な節水を心がけている



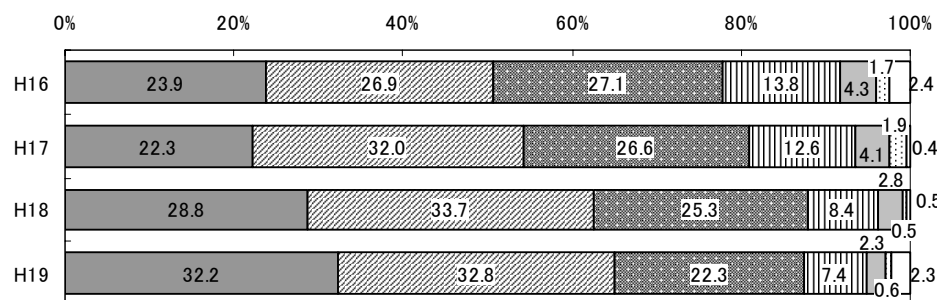


● 荷物の搬入・搬出以外でエレベーターは利用していない

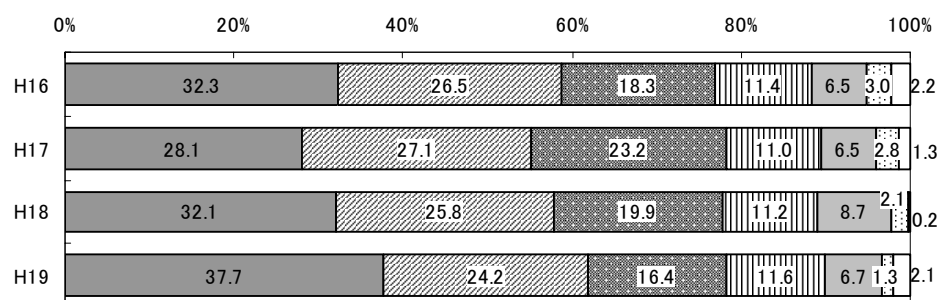


■ 廃棄物の減量化・資源化の推進

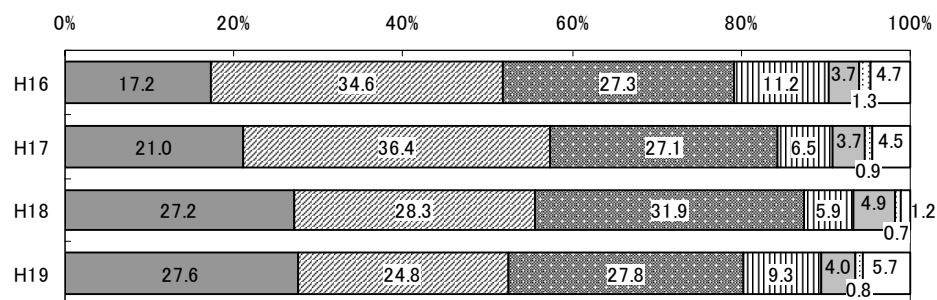
● 資料等は両面コピーで作成している

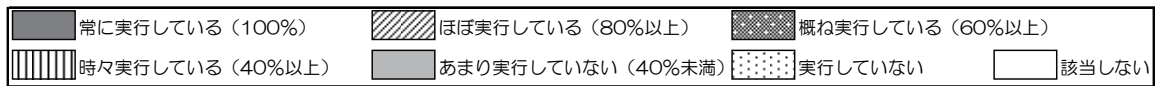


● 片面使用済み用紙の裏面をコピー用紙等として活用している

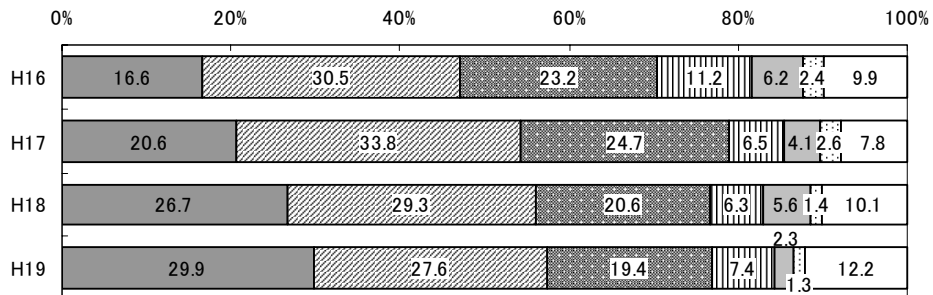


● 庁内情報システムを利用し、ペーパーレス化に努めている

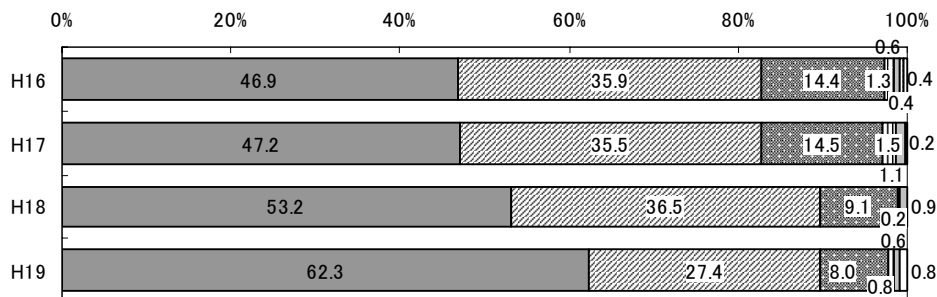




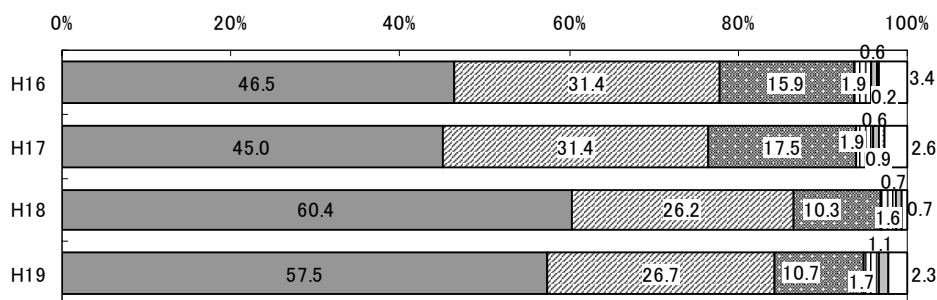
●外部機関との事務連絡はできる限り電子メールを利用している



●ごみの分別を徹底している



●シュレッダーは秘密文書に限り使用している



●割り箸、紙コップ等の使い捨て商品を使用していない

